

G授業（雲のでき方）の2時間目

五ヶ瀬町立鞍岡中学校

- 1 前回演示実験をした内容を、希望者に実際にさせる。



※前回の内容を想起させるために実施しました。

- 2 前回の最後のプレートが各班でどの順番で並んでいたかを確認する。



- 3 どうして上記のような順番になった理由を考える。



4 理由を発表する。

★ 空気が上昇して、膨張します。
 例として風船をよりウムのガスで、くまきりような事です。
 ★ 膨張してどんどん上へのぼ、ていきます。
 ★ 標高が高くなると気温が下がり、水蒸気となつて水の蒸気、必要になると思ひます
 ★ 気温が下がり、たらな水蒸気になつてとていうと、
 コツに水蒸気ができるようなシステムをと思ひました。
 書いた人……みゆりです。
 5/30/2011

＜説明＞
 水が温度により水蒸気になりその水蒸気が上昇して空気中で膨張し、雲ができると思ふから、水蒸気 → 上昇 → 膨張 の順にした。

空気は軽い
 ↓ 分れて
 上昇
 ↓ 温められて
 水蒸気。

水蒸気が温められ、断熱ぼろちよろして、あたたかい空気のかたまりは、冷たい空気のかたまりよりも、軽いからあたたかい空気は冷たい空気との境に浴びて上昇する。 ↓ たのぞ!!
 雲が出来る。☺

2. 上昇
 ・ 本末めい水た空気は周りの空気よりも軽くたつて上昇する
 本末めい空気は冷たい空よりも軽いから

 1. 膨張
 高い山では気圧が低い。
 袋を外から押す空気の圧力が入るから、袋の中の空気が膨張する
 3. 水蒸気
 空気中に含まれる水蒸気が冷たい水になる温度が下がると、少しの

* 空気が上昇する
 * 気圧が下がって膨張する
 その時に100℃を越えはたして温度が下がる
 * 空気は温度が下がると少ししか水蒸気を含めないので水が出来る
 この外的な要素が加わると、なると思ひます。
 以上です。

※ 6人のホワイトボードに書かれた内容です